資料１-１

乳児用液体ミルクについて

基本的な情報と、寄せられた国民の声のご紹介

乳児用液体ミルクプロジェクト

（一般社団法人　乳児用液体ミルク研究会）

2016.11.14

基本的な情報

赤ちゃんがすぐ飲める　粉を溶かす形態ではなく、調乳済みの液体

乳首を付けて与えるペットボトル（左）、哺乳瓶にそそぐ紙パック（右）

粉よりさらに衛生的　無菌充填処理済み

調乳時の菌混入リスクが少なく、WHO/FAOは感染リスクが高い状態では粉より液体ミルクを推奨

常温で長期保存可能　（米国製品の場合約1年）、常温のまま飲める

水の確保、熱源を必要としないため、災害時の活用が期待される

2011東日本大震災、2016熊本地震で被災地に海外製液体ミルクが寄贈され歓迎される

欧米では1970年代に普及しているが、日本には製造・成分、表示ともに「乳児用調製粉乳（いわゆる粉ミルク）」の規格しかない。乳児用液体ミルクについては法的整備なく、製造・流通は事実上困難と考える。

液体ミルク　製品の一例

アメリカ	EU	韓国
Similac (Abbott) Enfamil Gerber (Nestle)など	Aptamil (Danon) Nestle Hipp など	Babience (LG) 南陽　など

液 → 手を洗う → 開封し乳首を付ける → 授乳

粉 → 手を洗う → 粉を測って哺乳瓶に → 70℃の湯で溶く → 水を足して規定量に → 人肌まで冷ます → 授乳

当事者の声の紹介1…理事、署名、アンケートより

当団体理事・後藤智園（金融機関勤務） 1月出産、5月復職。現役ミルク育児中。

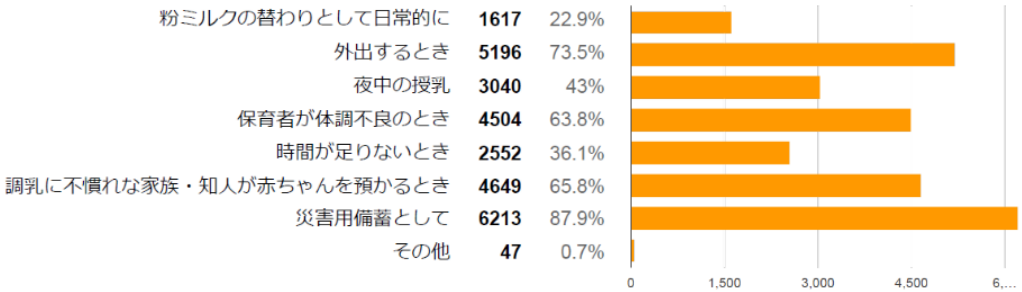
“働く親にとって1分1秒が大切。限られた家での時間を、こどもと直接向き合う事に充てたい”

署名、アンケート、Facebookページより：

とにかく便利 ・アメリカで子育て中。母乳が主ですが、お出かけや保育所に預ける際は液体ミルク。常温で保管でき、開封するまで清潔で、本当に便利です。 ・車で、子はベビーシート、親はシートベルトのままで授乳できます。	**男性にも使いやすい** ・慣れないミルク作り、どうしても経験値の差から嫁にダメ出しされて心がささくれる。この摩擦、液体ミルクがあれば不要！ ・夫に任せようと思っても、これはあれは？と聞かれ煩わしく、結局連れて行くからもういいよ、と言ってしまい後悔。	**夜間の授乳に使いたい** ・夜中の授乳がつらい。冬場なんてポットにたどりつくまでが地獄です。 ・夜泣きのあのつらさが少しでも軽減される未来の親が増えますように。 ・双子育児。泣かせっぱなしはかわいそうだし、自分の体力も底をついたまま。
被災地での授乳に 3ヶ月の子を抱え熊本で被災。避難所での生活中、ミルクを作るために水、哺乳瓶の洗浄、哺乳瓶の消毒のための水、と水の確保に加え、衛生環境の悪化の中での調乳と、本当に本当に大変でした。	**母乳育児のひとも** ・母乳育児で息子をそだてているが、人体を介している以上、それが突然できなくなるのでは？という不安を常に抱えています。 ・病気で投薬した際、ミルク作りがつらく、赤ちゃんもミルク拒否で困った。	**医療や保育の現場でも活用を** ・病院勤務。毎日20Lを越える高温のミルク調乳、火傷しながら小分けにして看護師2人以上で30分をかけています。液体ミルクがあれば、その時間をケアに使えます。 ・保育士。液体ミルクがあれば、調乳でこどもの見守り人員を減らさずに済む

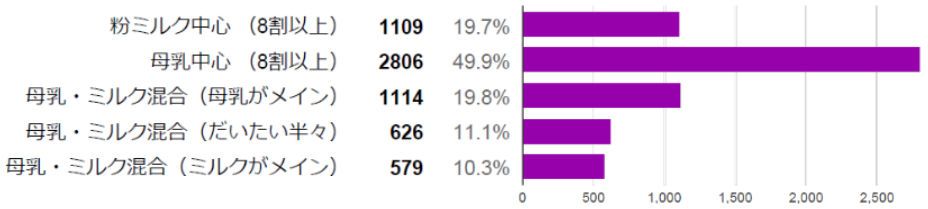
当事者の声の紹介2…アンケート途中集計より

04. 乳児用液体ミルクを使いたい場面や状況は？



日常的に、粉ミルクとの併用を望む声が多数

14. 乳児期の栄養について

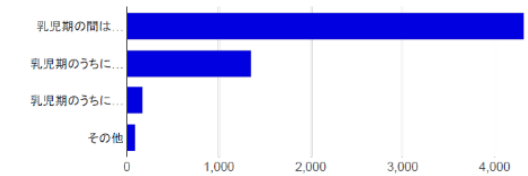


政府調査とほぼ同比率。母乳育児者にもニーズあり

17. 粉ミルクを使ってみて困ったことや不便だったことはどういう事でしたか？

物理的負担と、赤ちゃんを泣かせておく心理的負担

15. 乳児期の育児の状況について



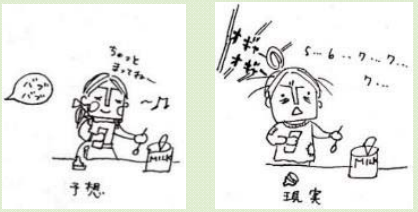
乳児期の間は、母親が自宅で育児に専念していた（いる） 4324 77.7%
乳児期のうちに保育園に預けて母親が働きはじめた 1355 24.3%
乳児期のうちに、父親や祖父母などが育児を担当して、母親が働きはじめた 180 3.2%
その他 97 1.7%

4人に1人は、乳児期のうちに復職している

メリット：外出・備蓄・夜間に便利

育児補助

- 3-5分省略可能
- おでかけの荷物が各段に減る
- 測り間違いがない
- 慣れない家族も使いやすい



衛生的

- 滅菌済み
- 調乳時の菌混入リスクも粉ミルクより低い
- 新生児や高感染リスク児には液体ミルクが推奨される

災害時利用

- 水、燃料の確保不要
- ペットボトル+使い捨て乳首タイプなら哺乳瓶が不要
- 母乳はストレスで止まるリスクあり
- 避難所での赤ちゃんの泣き声に配慮できる

デメリット：高い、好み、売りづらい

値段が高い	• 粉ミルクの2倍弱（US市場） • 海外でも、粉ミルクの売上がメインの国がほとんど
赤ちゃんの好み	• 吸啜反射は3-4ヶ月まで…それ以降は哺乳瓶拒否も • 温度、味の好みによって飲みたがらない場合も
店頭寿命が短い	• USもの：消費期限1年 • 日本基準に直すと6ヶ月（メーカー試算）→店頭2カ月、在庫が回転するかメーカーの懸念が大きい

海外では…1

G8 （仏米英独日伊加露）中 、液体ミルクが無いのは日本だけ！

アメリカ:

出産時、病院やネット申込で液体ミルクサンプルを大量にもらえる

早期の産休明けが多いため、母乳育児には搾乳がつきもの→
負担が大きく、ミルクに切り替える母親も多い

WIC:低所得家庭の妊産婦、乳幼児の食品購入を補助するプログラム。人工乳のシェアはこの補助での購入が大きい

人工乳の売上は、粉ミルク7割、残りがReady-to-Feedと濃縮乳

WHOコードは批准していない

フィンランド:

液体のほうが若干価格が高めであるものの、利便性のため、液体ミルクを普段から使用するひとが9割。

父親も授乳できるよう、混合栄養にしている家庭がメジャー。

写真“NAN” (500ml、ネスレ社から販売）年齢別に3段階。500mlで€1.21 (€2.42/kg）。200ml販売も。

冬場は冷えるため外出先では店でミルクの温めをお願いすることも多いが、当たり前なので断られることは基本的にはない

サイパンの陳列棚（本土より高い）

大手2メーカーのひとつ、Similac

フィンランドの陳列棚（手前下がTuuti）

ネスレ社NAN

海外では…2

母乳育児推奨のため、人工ミルクの販売流通に規制：通称WHOコード

日本には罰則が無く、メーカーの栄養士が産院に派遣される

海外企業は国外でもWHOコード遵守の義務：日本への参入障壁が高い

1 母乳代用品はすべて一般に宣伝してはならない。

2 母親に無料のサンプルを与えてはいけない。

3 無料あるいは優待価格での粉ミルク提供を含め、保健・医療機関に販売促進活動をしてはいけない。

4 企業が派遣する人が母親に接触してはいけない。

5 保健・医療従事者に贈り物をしたり、個人的にサンプルを渡したりしてはいけない。保健・医療従事者は母親に製品を渡してはならない。

6 赤ちゃんの画像を含め、人工栄養を理想化するような言葉あるいは画像を使用してはならない。

7 保健・医療従事者への情報は、科学的で事実に基づくものでなければならない。

8 乳児の人工栄養に関するすべての情報は、母乳育児の恩恵と優位性と、人工栄養にともなう経済コスト・危険性を説明されねばならない。

9 加糖練乳のような不適切な製品は、乳児用に売り込むべきではない。

10 たとえ国がコード実施に向けて動いていなくても、製造者と流通業者はコードの条項に従うべきである。

日本では…

食品衛生法 「乳及び乳製品の成分規格等に関する省令」
健康増進法 「特別用途食品制度」

→ともに、「乳児用調製粉乳」に関する項目しか無いため、
液体ミルクの母乳代替品としての製造・流通は難しい

日本の粉ミルク会社

- 明治・森永・雪印・ビーンスターク・和光堂・グリコ6社

粉ミルクってどんなもの？

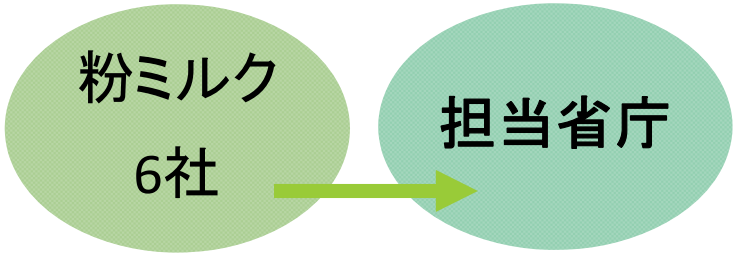
- 測って哺乳瓶へ→お湯で調乳→人肌まで冷ます
- 大缶、小缶、分包スティック、キューブタイプも

各メーカーの取り組み（当団体聞き取り）

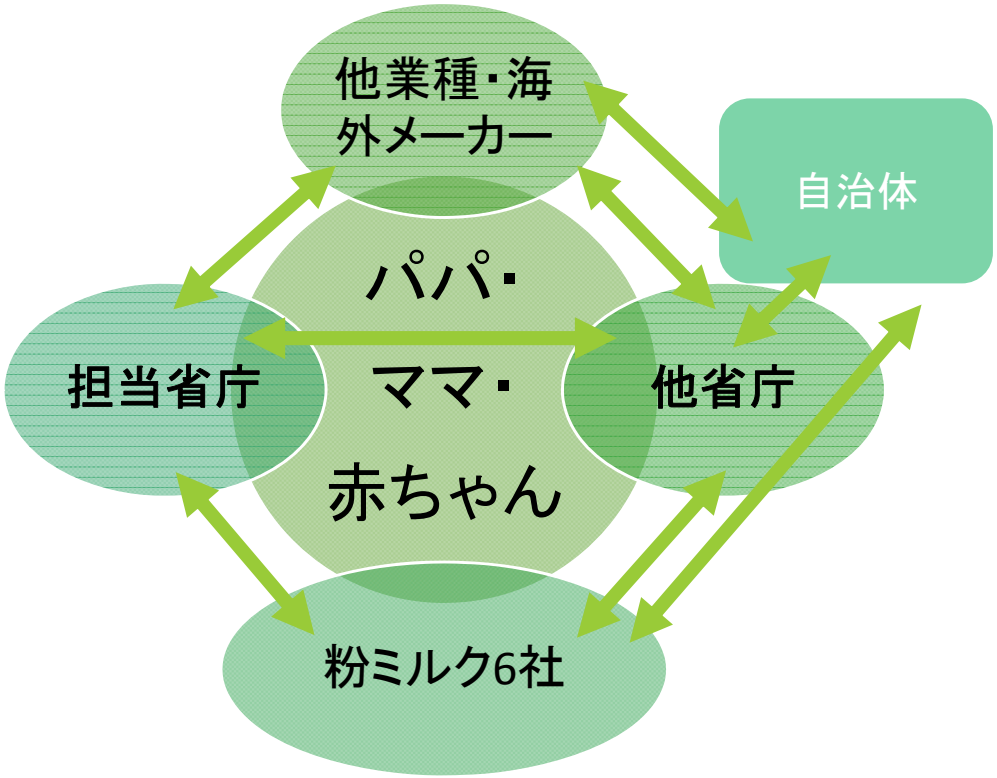
母乳研究： 乳児の栄養とその後の健康状態を長期的に調査し、製品の改良に繋げている

治療用ミルク： 市販のミルクが飲めない体質の赤ちゃんに特別な処方のミルクを小ロットで提供。登録分は国と折半、登録外や成人用はミルクメーカーが全負担

「政府全体での取り組み」に期待すること



国内粉ミルク6社だけが改訂の全タスクを担当しリスクを負うのは、母親が子育てを全て負っているのと同じ構造。
赤ちゃんとその家族を中心に捉えて、他業種や海外メーカーへの協力要請、自治体や他の省庁も含めた包括的な議論が必要！



液体ミルク国内販売が実現したら…

平常時…　時短と手軽さにより、保育者の負担が軽減される

・おでかけに、重くてかさばる魔法瓶や水を持ち歩かなくて良い

・夜間に、しんどい体を引きずってキッチンに立たなくても良い

・乳児期に育休復帰する人には、5分の短縮が本当にありがたい

災害時…　赤ちゃんのセーフティネットが強化される

・粉ミルクと比べ、水の確保、お湯を沸かす燃料の確保が不要

・調乳時の菌の混入による、赤ちゃんの感染リスクが低い

・ミルクができるまで赤ちゃんが泣き続けること無く、保育者や周りのストレス軽減

⇒育児のしんどさを減らし、親子の笑顔が増える！

乳児用液体ミルクプロジェクトについて

2014年11月　署名開始

2016年8月　法人化（非営利型一般社団法人）

代表理事：末永恵理（すえながえり）

授乳時の苦労から液体ミルクの署名を募ったところひと月で1万筆が集まり、署名以外でもやれる事に着手し実現を近づけたいと考えプロジェクトを開始。今年8月に社団法人を立ち上げ。娘は現在2歳半、趣味は液体ミルク空きビンでのおままごと。

副代表理事：後藤智園（ごとうともえ）

2016年1月に第一子を出産。5月にフルタイムで復職したため、ミルク育児中。熊本地震を機に、ミルクのセーフティネットは赤ちゃんにも家族にも必要なインフラであると感じプロジェクトに参加。息子はミルクをよく吐くため、ミルクのにおいがチャームポイントだが、床の掃除がとても大変。

署名をお渡しできた粉乳メーカー：

森永乳業様、和光堂様、雪印メグミルク様

ユーザーへの周知、署名活動

- 簡単にできるオンライン署名
- FacebookやHuffington Postを通じて液体ミルクの認知度を広げる

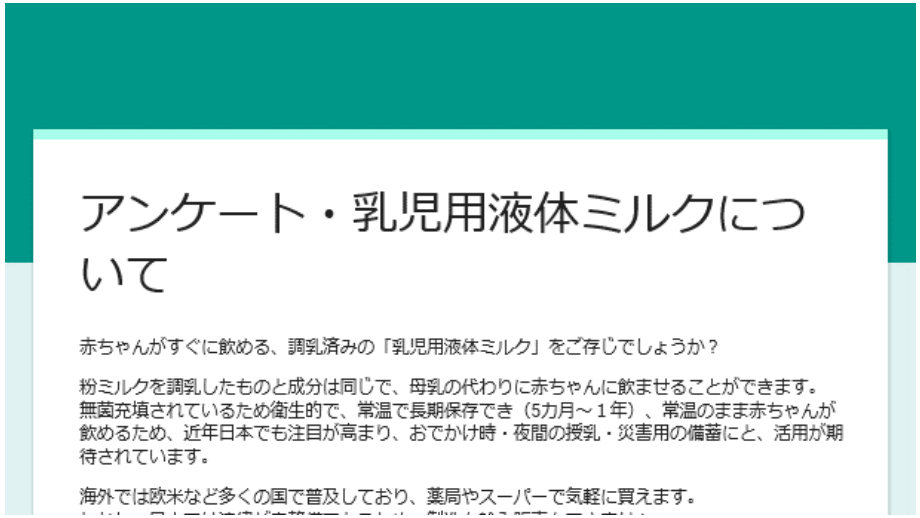
粉乳メーカー、行政への働きかけ

- 粉乳メーカーへ署名と声を届ける
- 厚労省への問合せ、内閣府への規制改革会議の議題提出

他業種参入の勉強会

- 輸入、他業種参入等を想定した勉強会を主催。賛同企業と協議・研究中（非公開）

アンケート調査ご協力のお願い



現在、一般消費者向けのアンケートを11月末まで実施しています。

ご参加の皆さまの社内や関係先にも、このアンケート調査願の掲示や、印刷物配布の協力をいただけないか、お声がけをお願いいたします。

より多くの回答を集めて、信頼性あるデータを活用していくために、ぜひご協力をお願いします。

知っていますか？
乳児用液体ミルク

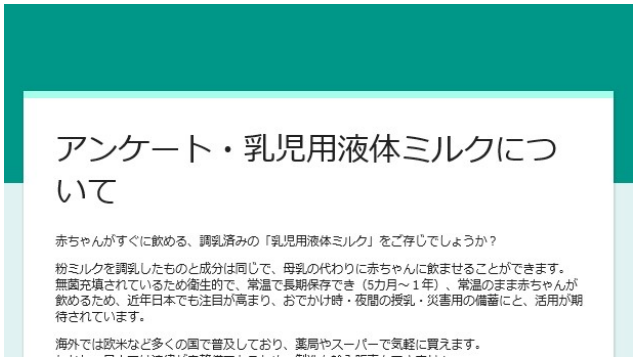
アンケート調査に、ご協力お願いします！

アンケート調査に、ご協力お願いします！

現在、液体ミルクについての知名度・ニーズを調査するウェブアンケートを実施しています。

ぜひ、回答のご協力をお願いします！

https://sites.google.com/a/liquid-milk-project.net/questionnaire/



QR コードからもアクセスできます！　所要時間は、3～5分程度です。

ご回答内容は、後日集計し、Facebook ページで発表します。

乳児用液体ミルクって、どんなもの？

欧米など多くの国では、粉だけでなく、すぐ使える液体ミルクも普及しています。

栄養分は調乳した粉ミルクと同じ。　母乳の替わりにあげられます。

調乳要らずで、外出に便利。また、水やお湯が不要で常温保存できるため、

災害時の活用を望む声が、近年、日本でも高まってきています。

液体ミルクには、メリットがたくさん！

衛生的

滅菌済み
菌混入リスクが低い
飲み切りタイプ

育児補助

調乳の 5 分を省略
おでかけの荷物が減る
泣いたらすぐ飲める

災害対策

水、燃料の確保が不要
誰でも、すぐにあげられる
ストレスの母乳不足にも

液体ミルク、なんで日本には無いの?

法律が無いからです。実は日本の粉ミルクに関する法律は、戦後すぐにできたもの。

その後、技術が進み、液体でも保存性の高いミルクが製造可能になったけど、法律上は

乳児用調製『粉』乳、つまり粉ミルクの記載しか無い状態が続いているのです。

法律を変えるためには、国民が声をあげることが必要です！

日本での販売実現を目指して、活動しています

私たち乳児用液体ミルクプロジェクトは、「液体ミルクを日本にも！」と願う子育て世代の声を、
メーカーや行政に届けるべく、署名や請願、勉強会の開催などの活動をしています。
ご興味を持っていただいたかたは、ぜひ下記のページもご覧ください。

Change.org オンライン署名： スマホやパソコンから簡単に署名できます。

www.change.org/p/babyformulaforjapan/

Facebook 活動報告ページ： いいね！して、活動報告やお知らせを受け取ろう！

www.facebook.com/milkformulajapan/

お問い合わせ(e-mail)：info@liquid-milk-project.net
乳児用液体ミルクプロジェクト（一般社団法人　乳児用液体ミルク研究会）
代表理事　末永恵理

ご協力、ありがとうございます！